

研修No. 9 5

2022 年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2023年 3月 30日
研究・研修課題名	初期・後期研修医を対象としたリアルタイム超音波ガイド下中心静脈穿刺シミュレーション研修
研究・研修組織名(所属)	安全な中心静脈穿刺を普及する会
研究・研修責任者名(所属)	森 英明(麻酔科)
研究・研修実施者名(所属)	森 英明(麻酔科)、二階哲朗(集中治療部)

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得 <input checked="" type="checkbox"/> その他の成果(CVC 実践セミナーの院内開催)
該当者名(所属)	
学会名(会期・場所)、認定名等	
演題名・認証交付元等	
取得日・認定期間等	
診療報酬加算の有・無	<input type="checkbox"/> 加算有() <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

目的及び方法、成果の内容**①目的**

中心静脈穿刺は重篤な合併症が生じうるため、多くのガイドラインでリアルタイム超音波ガイド下穿刺が推奨されている。しかし、リアルタイム超音波ガイド下穿刺はその理論とピットフォールを十分に理解していない場合、むしろ合併症が増加する可能性がある。本研修は、当院の初期・後期研修医を対象に、独学では習得が難しいリアルタイム超音波ガイド下中心静脈穿刺の理論とピットフォールを理解してもらい、シミュレータを用いてオフザジョブトレーニングとして手技確認をしてもらう。シミュレーション教育によって、多くの医師が臨床で安全で正しい中心静脈穿刺ができるようになることを目的とする。

②方法

日本医学シミュレーション学会の CVC 実践コースを当院で開催し、初期・後期研修医に受講してもらう。このコースでは、リアルタイム超音波ガイド下中心静脈穿刺の理論とピットフォールの理解とシミュレータを用いて中心静脈カテーテル挿入までを練習する。外部講師として日本医療機能評価機構 CVC 研修会指導者の杏林大学、徳嶺譲芳医師を招聘し、講義および実技指導をしていただく。

会場を未来棟ギャラキシーとして、実技訓練ブースを作成する。1ブースに、①超音波機器1台、②CVCカテーテル挿入パッド1個、③トレーニングパッド1個、当院で主に用いられている中心静脈カテーテルである④CVレガフォース SX1セットを準備し、8ブース作成した。受講生3名が1ブースで受講する。3名×8ブース=最大24名受講可能とする。日本医学シミュレーション学会の CVC 委員会インストラクター1名が2ブースの指導を担当する。

消耗品はスキルアップセンターに配置されている CVC カテーテルパッドとトレーニングパッドを使用し、不足分を新たに購入する。CVレガフォース SX はサンプル品を利用するため新たな購入はない。超音波機器はスキルアップセンターおよび ME センター管理の超音波機器を利用する。

③成 果

2022年9月23日(祝日)午前9時30分～午後0時30分まで、日本医学シミュレーション学会認定の「中心静脈穿刺実践セミナー」を院内で開催し、当院医師計18名が受講した(初期研修医5名、後期研修医6名を含む)。

受講生には事前学習資料を事前に配布し安全な中心静脈穿刺の理論と方法を予め学習してもらった。当日はシミュレーターを使用したトレーニングを行うことで、受講生にエコーガイド下中心静脈カテーテル挿入の安全な方法を習得してもらえた。

受講後に全参加者18名を対象にアンケートを行った。1) 受講してよかったですか?、3) 講習内容が理解できましたか?、5) 受講することで、技術は上達しましたか?、6) この講習会で得た技術で、臨床で実際に行うことができますか?、7) 今後この講習会の継続について、などで高い評価を得た(別紙参照)。